

《名匠 成瀬巳喜男の世界へ》 上映スケジュール

9/20 (土)	放浪記 浮雲	12:05 / 16:55 9:45 / 14:35 / 19:25 (終映21:30)
21 (日)	めし 山の音(やまのおと)	11:35 / 15:20 / 19:00 9:45 / 13:30 / 17:10 / 20:50 (終映22:25)
22 (月)	歌行燈(うたあんどん) 鶴八鶴次郎	11:40 / 15:15 / 18:50 9:55 / 13:35 / 17:10 / 20:45 (終映22:15)
23 (火)	罌雲 稲妻	9:45 / 14:05 / 18:20 12:20 / 16:40 / 20:55 (終映22:25)
24 (水)	石中先生行状記 夫婦	11:30 / 15:10 / 18:50 9:50 / 13:30 / 17:10 / 20:50 (終映22:15)
25 (木)	驟雨(しゅうう) 妻	11:35 / 15:15 / 18:55 9:45 / 13:25 / 17:05 / 20:45 (終映22:20)
26 (金)	妻の心 あらくれ	9:55 / 14:15 / 18:30 12:00 / 16:15 / 20:30 (終映22:30)
27 (土)	流れる 乱れる	9:45 / 13:50 / 18:00 11:55 / 16:10 / 20:20 (終映22:00)
28 (日)	晩菊 女が階段を上(あがる)時	10:10 / 14:20 / 18:30 12:15 / 16:25 / 20:35 (終映22:25)
29 (月)	コタンの口笛 あにいもうと	10:40 / 14:40 / 18:40 13:00 / 17:00 / 21:00 (終映22:25)
30 (火)	娘・妻・母 妻として女として	9:45 / 14:05 / 18:25 12:05 / 16:25 / 20:45 (終映22:30)
10/1 (水)	女の座 女の歴史	9:35 / 14:00 / 18:20 11:40 / 16:00 / 20:25 (終映22:30)
2 (木)	女の中にいる他人 ひき逃げ	11:35 / 15:15 / 19:00 9:45 / 13:30 / 17:10 / 20:55 (終映22:30)
3 (金)	秋立ちぬ 乱れ雲	11:50 / 15:25 / 19:00 9:45 / 13:25 / 17:00 / 20:35 (終映22:25)

《ご入場料金》一般1300円、学生1200円、友の会・シニア(60歳以上)・身障者1000円、ラスト1本800円  
前売1回券1100円(9/19(金)まで販売)、3回券3000円(9/28(日)まで販売)

《成瀬巳喜男(なるせ・みきお)プロフィール》

1905年東京市・四谷の生まれ。20年松竹蒲田撮影所に入社。小道具係、助監督を経て短編『チャンバラ夫婦』(30)で監督昇進。次第に頭角を現すもトーキー作品演出の機会に恵まれず、34年にP・C・L(後の東宝・砧撮影所)に移る。この時、慰留しなかった当時の撮影所長・城戸四郎が「小津(安二郎)は二人いらない」と言ったというエピソードは有名。

35年に『妻よ薔薇のやうに』でキネ旬1位

に輝くが、戦中から終戦直後は作品にも恵まれず永らく低迷するも51年の『めし』で復活。このときのスタッフ、撮影＝玉井正夫、美術＝中古智などがその後、多くの傑作群を支えた。

『稲妻』『妻』『晩菊』『浮雲』『放浪記』などの林美子を筆頭に、川端康成、室生犀星などを原作とした文芸作品を中心に、主に女性の心の機微や情念を巧みに描き、数々の名作を生み出した。海外でも小津、

溝口、黒澤と並ぶ巨匠として敬愛されている。

無口で物静かな人柄や、さりげない描写に牙えをみせたことから“ヤルセ・ナキオ”と呼ばれ、また後年の作品の多くにチンドン屋を登場させるなど独特のこだわりもみせた。1969年直腸ガンのため死去。享年63歳。

新文芸坐は2本立て!!

1枚のチケットで、2本の映画を続けてご覧いただけます。

- ◆上映開始30分以降の途中入場はご遠慮ください。
- ◆退出後の再入場はできません。
- ◆古い作品は映像や音声の状態が悪い場合がございます。何卒ご了承のうえご覧ください。



名匠 成瀬巳喜男の世界へ

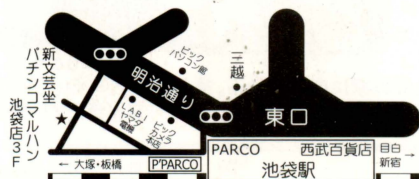
2008.9.20(土)~10.3(金)



感動はスクリーンから

**新文芸坐**

MARUHAN 豊島区東池袋1-43-5 マルハン池袋ビル3F  
池袋東口徒歩3分 TEL:03-3971-9422  
http://www.shin-bungeiza.com



### 放浪記

(1962/東宝)  
[原]林芙美子 [脚]井手俊郎、田中澄江  
[出]高峰秀子、宝田明、加東大介、仲谷昇、伊藤雄之助、草笛光子、田中絹代  
■『あらくれ』に次ぐ女の一代記もの。原作は林芙美子の自叙伝で、職業と男性を転々としながら、後に作家として成功を収めるまでを描く。3度目の映画化で、前年舞台化された菊田一夫の脚本が取り入れられた。



放浪記

### 浮雲

(1955/東宝)  
[原]林芙美子 [脚]水木洋子 [助]岡本喜八 [出]高峰秀子、森雅之、岡田茉莉子、山形勲、加東大介、中北千枝子  
■映画史上の傑作にも挙げられる代表作のひとつ。出会いと別れを繰り返しながらもズルズルと関係を続けていく男女の姿を描く。★毎日コンクール作品・監督賞、他 ★キネ旬1位・監督・女優(高峰)・男優賞(森)



### めし

(1951/東宝)  
[原]林芙美子 [修]川端康成 [脚]田中澄江、井手俊郎 [出]原節子、上原謙、島崎雪子、杉葉子、杉村春子、山村聰  
■原作は林芙美子の未完の絶筆で、成瀬にとって念願だった林文学初めての映画化。倦怠期の夫婦の心の機微を巧みに描き、戦後初の高評を得た。★毎日コンクール作品・監督賞・女優賞(原)、他 ★キネ旬2位



めし

### 山の音(やまのおと)

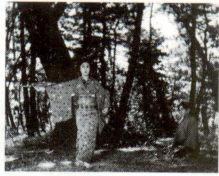
(1954/東宝)  
[原]川端康成 [脚]水木洋子 [助]笠正典 [出]原節子、山村聰、上原謙、杉葉子、中北千枝子、角梨枝子、長岡輝子  
■家庭を顧みない夫に愚痴もこぼさず耐える嫁と、彼女を不憫に思う舅を軸にしたドラマ。3作目となる川端作品の映画化で、原作小説の完結を待たずに撮影された。★毎日コンクール男優賞(山村)★キネ旬6位



山の音

### 歌行燈(うたあんどん)

(1943/東宝)  
[原]泉鏡花 [脚]久保田万太郎 [出]花柳章太郎、山田五十鈴、大矢次郎、柳永二郎、伊志井寛、清川玉枝  
■マキノ監督の『婦系図(おんなけいず)』のヒットを受けて、同じ鏡花の原作で『新生新派』の当り狂言を映画化。明治期、能の名流と謳われた師匠に勘当されることとなる、その養子・喜多八の奇妙な運命を描く。



歌行燈

### 鶴八鶴次郎

(1938/東宝)  
[原]川口松太郎 [脚]成瀬巳喜男 [出]長谷川一夫、山田五十鈴、藤原謙足、大川平八郎、三島雅夫  
■東宝入社3作目の長谷川と、入社したての山田が初共演した芸道もの。明治から大正期、男性の太夫・鶴次郎と、女性の三味線弾き・鶴八という新内の人気コンビ、惹かれ合いながらも喧嘩の絶えない二人の恋の行く末を描く。



鶴八鶴次郎

### 罌雲

(1958/東宝/カラー)  
[原]和田伝 [脚]橋本忍 [出]淡島千景、司葉子、水野久美、新珠三千代、小林桂樹、木村功、加東大介、二世・中村鴈治郎  
■東京近郊の農家を舞台にした、初のカラー作品。戦後の農村社会の変化を、戦争未亡人の恋愛をはじめとする様々な要素を絡めて描く。成瀬の最長尺の作品となった。★毎日コンクール脚本・助演男優賞(中村)



罌雲

### 稲妻

(1952/大映/角川映画/16mm)  
[原]林芙美子 [脚]田中澄江 [出]高峰秀子、香川京子、村田知英子、三浦光子、浦辺糸子、世上淳、小沢栄(栄太郎)、中北千枝子  
■下町に住む父親が皆違う4人兄妹とその母を描く。バスガイドの末娘・清子は姉姉たちの身勝手さに嫌気がさしていた……。★ブルーリボン作品・監督賞・助演女優賞(中北)★キネ旬2位



稲妻

### 石中先生行状記

(1950/東宝)  
[原]石坂洋次郎 [脚]八木隆一郎 [出]三船敏郎、池部良、堀雄二、若山セツ子、木匠久美子、杉葉子、宮田重雄  
■連作短編の映画化で3話からなるオムニバス。東北の城下町に住む小説家・石中をめぐるユーモアあふれるドラマが展開。石中先生役には原作者が固辞したため、原作の挿絵を担当した宮田重雄が起用された。



石中先生行状記

### 夫婦

(1953/東宝)  
[脚]水木洋子、井手俊郎 [出]上原謙、杉葉子、三國連太郎、小林桂樹、岡田茉莉子  
■『めし』に続き夫婦の感情を描いたオリジナル作品。妻を亡くした家主の面倒をみる妻に、夫は嫉妬を感じ夫婦の仲は険悪に……。妻役には病気の原節子に代わり、若い杉葉子を抜擢し脚本が練り直された。★毎日コンクール主演男優賞(上原)



夫婦

### 驟雨(しゅうう)

(1956/東宝)  
[原]岸田国士 [脚]水木洋子 [出]原節子、佐野周二、香川京子、根岸明美、小林桂樹、伊豆肇、加東大介  
■郊外に住むサラリーマン夫妻をめぐる小市民ドラマ。別の企画が暗礁に乗り上げたため、急遽岸田国士の戯曲群をまとめた現代劇の脚本を仕立て、短期間で作られた。当時の日常生活の風俗が巧みに織り込まれている。



驟雨

### 妻

(1953/東宝)  
[原]林芙美子 [脚]井手俊郎 [出]上原謙、高峰三枝子、新珠三千代、高杉早苗、三國連太郎、伊豆肇  
■『めし』『夫婦』に続く『夫婦もの』。結婚10年で子供もなく仲の冷え切った夫婦の物語。取り止めとなった企画で主役に予定されていた高峰三枝子とそのまま妻役を演じた。★毎日コンクール主演男優賞(上原)★NHK映画賞9位



妻

### 妻の心

(1956/東宝)  
[脚]井手俊郎 [出]高峰秀子、三船敏郎、小林桂樹、根岸明美、杉葉子、北川町子、千秋実、加東大介、沢村貞子  
■地方都市を舞台に、夫婦ものに家族劇の厚みが加わった作品。稼業を継ぎ色々な事業に手を出しては失敗していた次男夫妻のもとに、会社が倒産した兄一家が転がり込み……。★毎日コンクール助演女優賞(沢村)



妻の心

### あらくれ

(1957/東宝)  
[原]徳田秋声 [脚]水木洋子 [出]高峰秀子、森雅之、加東大介、上原謙、三浦光子、志村喬  
■徳田秋声が大正時代に発表した自然主義文学の代表作の映画化。幾度も男に傷つきながらも自力で運命を切り開こうとする逞しい女性の生き様を描く。水木洋子との最後のコンビ作。★毎日コンクール主演女優賞(高峰)★NHK映画賞2位



あらくれ

### 流れる

(1956/東宝)  
[原]幸田文 [脚]田中澄江、井手俊郎 [出]高峰秀子、山田五十鈴、岡田茉莉子、栗島すみ子、杉村春子、田中絹代  
■花柳界を舞台にした演技派女優競演の群像劇。お座敷シーンなどは一切登場せず、芸者置屋の日常が田中絹代演じる女中の視点で描かれる。★芸術祭賞 ★毎日コンクール主演女優賞(山田)、他 ★キネ旬8位



流れる

### 晩菊

(1954/東宝)  
[原]林芙美子 [脚]田中澄江、井手俊郎 [出]杉村春子、望月優子、細川ちか子、沢村貞子、上原謙、加東大介、有馬稲子  
■林芙美子の同名小説に「白鷺」「水仙」を加えて映画化。芸者上がりの4人の中年女性の生き方を、金貸しをするドライな女を軸に描いていく。★ブルーリボン助演女優賞(望月)★キネ旬7位



晩菊

### コタンの口笛

(1959/東宝/カラー)  
[原]石森延男 [脚]橋本忍 [出]幸田良子、久保賢、宝田明、森雅之、水野久美、志村喬、大塚国夫、久保明  
■アイヌ民族の差別をテーマにした児童文学の映画化で、アイヌの中学生姉弟が迫害にもめげず健気に生きようとする姿を描く。脚本は前作『罌雲』に続き橋本忍が担当、アイヌ音楽に造詣の深い伊福部昭が音楽を手がけた。



コタンの口笛

### 娘・妻・母

(1960/東宝/カラー)  
[脚]井手俊郎、松山善三 [出]原節子、高峰秀子、三益愛子、団令子、草笛光子、宝田明、仲代達矢、森雅之、上原謙  
■原と高峰が18年ぶりに共演した豪華キャストのホームドラマ。山の手暮らしの一家に持ち上がった経済的問題に、母、妻、娘それぞれの思惑が交錯する。『驟雨』以来久々の原は最後の成瀬組出演となった。



娘・妻・母

### 女の座

(1962/東宝)  
[脚]井手俊郎、松山善三 [出]高峰秀子、司葉子、団令子、星由里子、草笛光子、淡路恵子、宝田明、夏木陽介、三橋達也、小林桂樹、笠智衆、加東大介  
■『娘・妻・母』の系譜に連なる井手・松山コンビのオリジナル脚本。大家族の中の女性たちを様々に描いてみせたホームドラマ。東宝女優陣に名優を配した豪華キャスト。



女の座

### 女の中にいる他人

(1966/東宝)  
[原]エドワード・アタイア [脚]井手俊郎 [出]小林桂樹、新珠三千代、三橋達也、草笛光子、若林映子、長岡輝子、加東大介  
■海外の推理小説「細い線」を原作とした異色作。情事の果てに友人の妻を殺害した男は、良心の呵責から妻に罪を告白してしまうが……。★毎日コンクール助演男優賞(三橋)★キネ旬10位



女の中にいる他人

### 秋立ちぬ

(1960/東宝)  
[製]成瀬巳喜男 [脚]笠原良三 [出]乙羽信子、藤間紫、原知佐子、夏木陽介、加東大介、大沢健三郎、一本双葉  
■子供を主人公に、子供の眼を通して大人の世界の醜さや哀しみが描かれる。父を失った小学6年の秀男は、母と共に伯父の家に身を寄せる。秀男は母の勤める旅館の娘で、小学4年の順子と知り合い仲良くなる。



秋立ちぬ

### 乱れる

(1964/東宝)  
[製]成瀬巳喜男、他 [脚]松山善三 [出]高峰秀子、加山雄三、白川由美、浜美枝、草笛光子、三益愛子  
■脚本は自身のTVドラマを基にした松山のオリジナル。夫を先立たれて以来、ずっと稼業を切り盛りしてきた未亡人は、彼女を密かに慕っていた義弟から愛を告白される……。★アジア映画祭脚本賞、他 ★NHK映画賞8位



乱れる

### 女が階段を上(あ)がる時

(1960/東宝)  
[製]脚]菊島隆三 [衣]出]高峰秀子 [助]広沢栄 [出]仲代達矢、加東大介、二世・中村鴈治郎、森雅之、団令子、淡路恵子  
■銀座の高級バーの雇われマダムを主人公にしたオリジナル脚本作。女ひとりでの色と欲に絡んだ世界を生き抜くヒロインの哀歓を、成瀬ならではの手腕で描いてみせる。★ブルーリボン賞2位



女が階段を上(あ)がる時

### あにいもうと

(1953/大映/角川映画/16mm)  
[原]生犀星 [脚]水木洋子 [出]京マチ子、森雅之、久我美子、堀雄二、船越英二、浦辺糸子、山本礼三郎  
■兄妹の愛情のぶつかり合いを描いた同名小説2度目の映画化で、成瀬最後の他社演出作品。身重となって実家に戻ってきた妹・もんに、兄・伊之吉は辛くあたる……。★芸術選奨 ★ブルーリボン賞2位 ★キネ旬5位



あにいもうと

### 妻として女として

(1961/東宝/カラー)  
[脚]井手俊郎、松山善三 [出]高峰秀子、森雅之、淡島千景、星由里子、仲代達矢、水野久美、淡路恵子  
■バーを経営する愛人(高峰)と、愛人の子供をひきとり育てる妻(淡島)との確執をめぐるドラマ。店の名義人である妻へ毎月金を支払っていた愛人が、関係を清算しようと申し出たことから女同士の対立が始まる……。



妻として女として

### 女の歴史

(1963/東宝)  
[脚]笠原良三 [出]高峰秀子、仲代達矢、宝田明、山崎努、星由里子、草笛光子、淡路恵子、賀原夏子、加東大介  
■ひとりの女性の嫁入り前から孫孫を持つまでの半生を描く。成瀬版「女の一生」。女手ひとつで育ててきた一人息子の結婚を軸に、彼女が振り返る過去を織り交ぜて描く。★毎日コンクール録音賞



女の歴史

### ひき逃げ

(1966/東宝)  
[脚]松山善三 [出]高峰秀子、司葉子、黒沢年男、中山仁、小沢栄太郎、加東大介、賀原夏子、浦辺糸子、加藤武  
■子供を殺された女性の復讐劇。幼い一人息子がひき殺され、犯人が名乗り出て示談となった。だが、真犯人とおぼしき女性がいることを知った母親は、彼女の家に家政婦として雇われる。★キネ旬女優賞(司)



ひき逃げ

### 乱れ雲

(1967/東宝/カラー)  
[脚]山田信夫 [出]加山雄三、司葉子、森光子、浜美枝、草笛光子、中丸忠雄、土屋嘉男、藤木悠、加東大介  
■夫が交通事故で不慮の死を遂げる。残された妻は実家にもどるが、そこで事故を起こした男性と再会し、いつか惹かれ合うようになる……。撮影時、体調不良を訴えていた成瀬の最後の監督作となった。★キネ旬4位



乱れ雲